

現代女性とキャリア連携専攻の昨年度報告および本年度の状況と展望

永田 典子

1. はじめに

現代女性とキャリア連携専攻は、2008 年度入学以降の目白キャンパス（家政学部・文学部・理学部）の全学生に開かれており、現代社会に生きる女性の生き方や働き方について考え、先人学び、幅広い知識や思考力、実践する力を身につけることを目標としている。大学卒業後に、就職、結婚、出産、育児、介護や老後等の多様なライフコースにおいて、生き生きと充実した人生を設計ができるよう支援するものである。

2. 履修状況

現代女性とキャリア連携専攻のカリキュラムは、コア科目と 3 領域の選択科目群から構成され、指定された単位数を修得することにより、卒業時に修了書が発行される。2013 年度に発行した修了書の数表-1 に示すとおりであり、合計で 40 名分であった。3 学部における修了者としては多くないように感じられるが、2012 年度は 16 名であったことを鑑みると 2013 年度はかなり好調であったといえる。なお、2011 年度は 38 名の修了者であったことから、2012 年度の修了書発行数がとりわけ少なかったのかもしれない。このように年度により修了者数が上下動する理由は不明であるが、2013 年度における 40 名という数字も、学生数に比して少ないことは事実である。

表-1 2013 年度修了書発行人数一覧

学部	学科	人数
家政学部	児童	2 名
	食物	0 名
	住居	2 名
	被服	0 名
	家政経済	9 名
文学部	日本文学	8 名
	英文	9 名
	史	7 名
理学部	数物科学	1 名
	物質生物科学	2 名

次に、表－2 にコア科目の履修者数の変遷を示す（科目名に※が付記されている科目は後期の開講科目であることから、2014 年度の履修者数は 5 月現在では未確定である）。履修者数の合計の変遷を見ると、コア科目の履修者数は、2010 年度から 2013 年度にかけて年々減少の傾向を示していた。しかしながら、2014 年度は履修予定数が大幅に回復している。

この回復の理由として、広報の効果が考えられる。委員会ではかねてより本専攻の周知度の低さが問題とされていた。2011 年度以降、本専攻に関するリーフレットが作成されてきたが、2014 年度配布のリーフレットはデザインを一新した。学生が何を履修すればよいか一目瞭然にわかるようなデザインにし、また修了書が発行されることなどをきちんと明記した。また、2013 年度に引き続き 2014 年度も、4 月の各学科の履修ガイダンスの時に、説明を加えてリーフレットを配布することを試みた。以上のような地道な広報戦略が功を奏したといえるのではないだろうか。また、2014 年度の「女性と身体」において授業内容の見直しも行ったということも、履修者増加につながったかもしれない。以上のことから、広報活動や授業内容の見直しなどを適切に行っていくことが重要であることがわかる。

表－2 コア科目の履修者数の変遷

科目名	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
現代女性論 ※	55	87	69	51	45
現代男性論	120	96	78	73	56
日本の女性史 ※	195	67	106	98	110
世界の女性史	74	49	35	27	57
女性と身体 ※	24	18	20	32	142
女性と職業	47	68	46	39	35
合 計	515	385	354	320	445

3. 「女性と職業」について

表－3 に、「女性と職業」の 2014 年度のゲストスピーカーについて紹介する。この科目は、各学科の卒業生をゲストスピーカーとして招き、女性の職業の実態を具体例として提示する講義が展開されている。この授業を通して、学生は、さまざまな分野の先人の仕事のあり方を実際に見聞し、働く意欲と勇気を得ることができるようである。

表－３「女性と職業」２０１４年度のゲストスピーカー

学科	業種／職種（卒業・修了年）
児童学科	官公庁（地方） 社会福祉職 （２００７ 年卒）
食物学科	製造業 商品開発職 （１９９５ 年卒）
住居学科	大学 教員 （１９８１ 年卒）
被服学科	非営利団体 総合職 （２００４ 年修士課程修了）
物質生物科学科	製造業 企画職 （２００３ 年博士課程前期修了）
日本文学科	官公庁（国家） 行政事務官 （２０１０ 年卒）
英文学科	生活関連サービス業 通訳・翻訳 （２００３ 年卒）
史学科	官公庁（地方） 行政職 （２０１０ 年卒）
数物科学科	独立行政法人 研究職 （１９９４ 年卒）
家政経済学科	情報サービス業 システムエンジニア （１９９７ 年卒）

４．今後の課題と展望

本専攻では、学生数に比して履修者および修了書発行数が少ないという現状がある。その理由としては、履修単位数に上限があることや GPA 制度の導入等が影響しているかもしれない。しかし、広報活動などの効果があることから、今後も学生にわかりやすい情報提供と履修しやすいカリキュラム作りをしていく努力は重要である。

学生にとって履修をわかりにくくしている一因は、目白キャンパスに「現代女性とキャリア連携専攻」と「キャリア形成科目」があり、西生田キャンパスに「キャリア女性学副専攻」があるという、キャリア関連科目が複数存在しているように見えることである。今後のキャリア教育の充実とシステム整備をめざして、２０１３年度は「現代女性とキャリア連携専攻とキャリア委員会の合同委員会」をはじめて開催した。今後も、両キャンパス統合に向けて、本学全体としてのキャリア教育のあり方を検討する必要があるだろう。

また、学生にとって本当に履修しやすい科目編成であるかの検討も必要であろう。学科によっては自由選択科目としての履修が非常に困難な場合もあり、カリキュラム上履修したくても履修できない状況もあると聞く。２０１４年度は、履修科目の見直しも行っていきたい。さらに、学生にとって修了書を得ることのメリットも考える必要がある。現状では修了書が発行されるのは卒業時であり、実質的に就職活動に使うことができない。そこで、２０１４年度は修了書発行の時期の検討も行う予定である。

（ながた のりこ 理学部物質生物科学科教授 現代女性とキャリア連携専攻委員長）